

林業A

〔例題1〕 次の文章は、森林GISに関する記述である。文章中の空欄a～cに入るものの組合せとして妥当なのはどれか。

森林GISは複数の **a** から構成され、それには等高線図や林道網図などが含まれる。複数 **a** を重ね合わせて表示したり解析したりする機能を **b** と呼び、道路や河川などから等距離圏を抽出する機能を **c** と呼ぶ。

a	b	c
1. 主題図	インターセクト	バッファリング
2. 主題図	インターセクト	ユニオン
3. 主題図	オーバーレイ	バッファリング
4. フィーチャ	インターセクト	ユニオン
5. フィーチャ	オーバーレイ	バッファリング

【正答3】

林業A

〔例題2〕 森林環境税及び森林環境譲与税に関する次の文章の空欄 a～d に該当する語の組合せとして妥当なのはどれか。

〔a〕3月に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立し、「森林環境税」及び「森林環境譲与税」が創設された。

「森林環境税」は、令和6年度（2024年度）から、個人住民税均等割の枠組みを用いて、国税として1人年額1,000円を〔b〕が賦課徴収するものである。

また、「森林環境譲与税」は、〔b〕による森林整備の財源として、令和元年度（2019年度）から、〔b〕と〔c〕に対して、私有林人工林面積や林業就業者数などによる客観的な基準で按分し、譲与されており、令和3年度（2021年度）の譲与額は総額約〔d〕億円となっている。

	a	b	c	d
1.	平成31年(2019年)	市町村	都道府県	400
2.	平成31年(2019年)	市町村	森林組合	400
3.	平成31年(2019年)	国	都道府県	100
4.	平成29年(2017年)	市町村	森林組合	100
5.	平成29年(2017年)	国	森林組合	400

【正答1】

林業A

〔例題3〕 さし木に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. さし穂は、親木の品種・系統により発根能力に違いがあるので、事業的にさし木する場合には、発根能力が低いものを使う。
2. さし穂の発根能力は、親木が年齢を増すにつれて高くなり、さし木が困難な樹種・品種ほどその傾向が強い。
3. 採種園等で育成された萌芽枝は、発根能力が低い。
4. 主要な針葉樹では、春ざしが一般に用いられ、新芽の発芽後にさし付ける。
5. さし床の灌水に、水を噴霧するミスト灌水装置を利用すると発根率が大きく向上する。

【正答5】

林業A

〔例題4〕 森林の有する国土保全機能に関する次の文章の空欄 **a** ～ **d** に該当する語の組合せとして妥当なのはどれか。

森林の主な国土保全機能には、山地災害防止機能・土壌保全機能と、**a** 機能がある。これらの機能は、山崩れ等の山地災害や洪水を防止・軽減し、地形が険しく地質が**b** で雨の量が**c** 我が国の国土保全上重要な役割を果たしている。

山地災害防止機能・土壌保全機能とは、森林が土砂の流出や崩壊を防ぐ機能であり、具体的には表面侵食防止機能と**d** 防止機能がある。

	a	b	c	d
1.	水源涵養	脆弱	多い	表層崩壊
2.	水源涵養	脆弱	少ない	深層崩壊
3.	水源涵養	強靱	多い	深層崩壊
4.	木材生産	脆弱	多い	深層崩壊
5.	木材生産	強靱	少ない	表層崩壊

【正答1】